

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403327	
法人名	(有)アロー商事	
事業所名	グループホーム我が家	
所在地	いわき市平字橋下1番地	
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和2年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域の中でその人がその人らしく生活できるグループホームを目指している。
 ・それぞれの生活歴を踏まえ、生活の中に残存機能を活かし、一人ひとりの意思尊重を大切にしながら、事業所だけの生活でなく、行きたい場所や馴染みの場所に外出できるよう支援している。
 ・毎日の生活の中で役割が持てるよう、本人が好むものや出来る事を探して行って頂いている。
 ・常に寄り添い、会話や活動等の橋渡しを積極的に行い楽しく生活できるよう支援している。
 ・地域行事への参加や他事業所との交流を積極的に行えるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、季節を感じられるよう外気浴や外に出る機会を多くして、気分転換を図り楽しいと思ってもらえるよう取り組んでいる。
 利用者に自宅と同じようにすごしてほしいという思いのもと、利用者が自分の意思で行動し、生きがいをもってすごせるよう、事業所ができることを柔軟に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、職員全員が目につく場所に掲示し、会議等で繰り返し内容を確認することで共有化を図り、利用者本位の生活ができるよう支援に努めている。	管理者と職員で話し合っ定期的理念を見直し、事業所が実現したいことを反映させている。利用者が生きがいを持ち、活き活きとすごせるように、活躍の場を大切にしながら支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の季節感が味わえる行事やイベントに積極的に参加している。また、事業所の行事にも家族や老人会の方に声をかけ参加いただいている。	地域のお祭りに参加したり、ボランティアにフラダンスを披露してもらったり、利用者と地域の方が一緒に楽しむ機会をつくっている。地域の講座などを通して情報を発信し、認知症を理解してもらえるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターとの連携や運営推進会議等、地域の方との関わりを持った際には、認知症の症状や関わり方を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回、定期的に運営推進会議を開催し、事業所の活動内容の報告、施設の現状に於ける課題などを話し合い、委員からの意見を参考に改善に取組みサービス向上に活かしている。	会議に参加している家族から防災訓練をみたいとの要望があり、会議日程にあわせて行うなど、出された意見を運営に反映している。近隣の他事業所にも会議に出席してもらい、情報交換をしてお互いのよい部分をケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が密に連絡・情報を報告し、情報交換を行うことで市町村担当者との連携を図り、協力関係構築に努めている。	市と日頃から連絡をとり、市が主催する市民講座や徘徊模擬訓練などにも積極的に参加して協力関係を築いている。災害時にも速やかに連携をとって支援物資を受け取るなど、安心につながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等も夜間帯以外は施錠せず、自由に職員と一緒に外出できるよう取り組んでいる。また、社内研修に於いて身体拘束への理解を深め身体拘束・言葉による拘束のないケアの実践に努めている。	基本的に身体拘束はせず、利用者が自分の意思で自由に行動できるようにしている。利用者が外出を希望する際は、職員が寄り添って安全にすごせるようにしている。職員は定期的に身体拘束について話し合い、考え方を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止などミーティングでの話し合いや内部研修等の勉強会を行い、職員全体で虐待が起こらないよう取り組んでいる。社外研修など虐待に関する知識・意識を高め、虐待が見過ごされることがないように、日頃から注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者があり、全体会議にて職員へ成年後見人制度について報告し情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に家族等に説明を行い、疑問や要望等を確認し説明している。また、利用中も気軽に職員へ不安な点、疑問点や相談等があれば、いつでも電話や来所時に声かけていただくよう口頭で伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、ご家族様来所時には近況報告をし常に情報を共有している。また、家族の来所時に職員から積極的に声をかけ、意見や要望等が言いやすい環境を作れるよう努めている。	ことばの使い方について家族の方から意見をもらい、職員間で話し合っケアにつなげている。家族を通して、利用者が日常の生活している様子を写真のスライドを見てもらい、意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的及び不定期に職員と面談を行い、業務に反映させている。また、毎月の会議や日頃の業務内での会話の中で職員に問いかけ、意見や相談を聴取し、業務に反映させている。	職員が困っていることについて、理解し適切な助言をするなど、ストレスを溜めず働きやすいようにしている。意見や提案については、メリット・デメリットを考慮してもらい話し合い、実践につなげるようにしている。資格取得を希望する職員には、積極的に支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用管理の研修に参加し、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験やスキルを考慮し、外部研修に積極的に参加させている。内部研修の企画、実施を行っている。また、一人ひとりに業務担当をつけてスキルアップをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協議会に加盟し研修会へ参加。また、他の事業所と交流する機会を作り、サービスの質向上につながるよう取り組んでいる。代表者は、他事業所の運営推進委員として会議に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みを頂いてから実態調査をして本人と面談している。その際に困っていること、不安なこと、求めていることなど、よく伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用していただく前に、本人と家族の気持ちを受け止める姿勢で、本人の状況・家庭内の現状に耳を傾け、少しでも不安要素を解消し、信頼関係が構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の関しての相談があった時には、現状をお聴きし状況に応じて必要なサービスのアドバイスを行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の声を形にしていけるよう、良く関わり想いを引き出している。また出来る所を引き出し、見極めながら家事などの役割を持ちながら生活して頂けるようにしている。個別でのケアを通し信頼関係の構築を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自立支援を念頭に置き、家族的な生活空間の構築及び本人の個性・力・暮らし方を重視し、一緒に喜怒哀楽を共にしながら家庭的な生活を営める関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・知人がいつでも気軽に来訪できる環境作りに努め、本人の体調を考慮しながら、家族・友人と外出・外食・外泊・買い物等に出掛ける等、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。	季節を感じられる行事に出かけたり、日常的に外出し地域の方と交流するなど、馴染みの関係が継続できるようにしている。気軽に事業所に立ち寄ってくれる方などにもなっていて、部屋で食事をするなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、職員が橋渡しとなるよう努めている。食事の席、レクリエーション時の配置等にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも電話や手紙のやり取りがある場合もあり、必要に応じて相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向について、日々の生活の様子や言動から把握できるよう努めている。また担当制度を導入しており、各担当者が中心となり、利用者との日常的会話や行動から意思の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報を得て、本人に沿う支援を検討している。	一人ひとりに寄り添い、目と目を合わせたり触れるなどしながら話をし、思いの意向をくみ取り職員間で共有している。利用者の性格を考え、きっかけづくりや環境を設定し何をしたいのか、本人が選択できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から利用者個々の生活習慣・暮らし方・サービス利用までの経緯等をお聞きし、できるだけ慣れ親しんだ暮らしができるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の日々の暮らしぶりや、家族から入所以前の生活習慣・心身の状態をお聞きし、職員全体で情報を共有しながら現状を把握するよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となって、本人・家族から意見・要望をお聞きし、アセスメントした内容を会議で話し合い、現状に合わせた介護計画を作成している。また、心身の状態に変化に合わせて、モニタリングした内容を基に介護計画の見直しを行っている。	本人の自立に向けて何が必要か、役割や生活の質を高められる支援を考え、個別の具体的な介護計画を作成している。日常生活動作表を作成し、定期的に担当者と注意点など細かく話し合い、その人らしく暮らせるように介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子や言動、排泄、食事、水分量、職員の気づきなどを記録し、職員間で情報の共有をはかっている。また、介護計画の見直しにも活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り時間に捉われない業務を組み、職員意識が業務優先とならないよう常に確認している。また、地域行事への参加や通院の希望、買い物、ドライブ、散歩などの外出等のニーズにできる限り対応し、個々の満足感を得られるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの職員や介護相談員、地区の老人会長さんに運営推進会議に参加いただき意見をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と話し合い、希望に沿ったかかりつけ医を選定している。基本通院は家族が行うが、心身の状況によって管理者が対応したり、往診に切り替え、臨機応変に支援している。また、医療連携を結び、一週間に二度訪問看護師が来訪し、常に家族・医療・事業所で情報を共有し、協力体制を構築している。	専門医を継続して受診するなど、本人と家族の意向に沿えるよう支援している。受診の際は、職員間で意見をまとめ、ホームでの利用者の様子が的確に伝わるように努めている。診察結果は記録をして、電話や面談で家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間オンコールの体制をとっている。また、毎朝バイタル測定を行い、訪問時には日常の状態を伝え、それ以外にも何か変化あった際には直ぐに報告し、的確な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には情報提供だけでなく、事業所職員もムンテラに同席させていただき、家族と情報を共有できる体制にしている。また、病状の経過や退院に向けての相談をSWや看護師と情報交換できるようカンファレンスをして頂くよう話しをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」の説明と終末期のあり方について意向を伺い、同意を得ている。利用者が重度化した場合には「看取り介護についての同意書」を作成し家族やかかりつけ医、訪問看護師と連携を図りチームでの支援に取り組んでいる。	重症化する前の段階から話し合いを重ね、安心して最期を迎えられるよう支援している。話し合いの際は家族にわかりやすいように、考えられることを具体的に丁寧に話すよう心がけている。職員は看取りの勉強会を行い、緊急時にも落ち着いて対応できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、緊急時にはマニュアルに沿った対応ができるよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・日中想定避難訓練、非常通報訓練等内容を変え、ほぼ月1回防災訓練を行っている。地域との協力体制としては、運営推進会議において年1～2回総合防災訓練に参加していただいている。	すべての職員が手順書に沿って速やかに通報や避難ができるようにしている。非常時でも消防や応援の方に情報を正しく伝えられるよう訓練を重ねている。消防署から避難時に火元の近くを通らないようアドバイスをうけ、訓練に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念を念頭に置き、利用者一人ひとりの人格を尊重した、親しみの中にも尊敬の念のある言葉遣いについて、全体会議時だけでなく日頃から職員同士で話あっている	人生の先輩として敬いの気持ちをもって利用者に接している。利用者が嫌がることは、その背景を考えて原因を取り除き、気持ちよくすごしてもらえよう努めている。利用者が不快に思ったり、負担に感じたりすることがないように、話しかけ方に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけの最後を質問形式にし、なるべく自己決定できるよう促している。上手く意思表示が出来ない利用者に対しては、本人の表情・動作から意思や希望を察知するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の意識を業務優先とならないよう全体会議等で確認している。利用者一人ひとりが望んでいる暮らし方のペースを重視し、活動の際も常に伺いをたて、意向に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や散髪等、ご自分の想いでされている方がいる。また、自分らしく身だしなみが整えられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、後片付け、おやつ作りなどを一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒にやっている。食事の際には同じテーブルで会話を交え楽しく食事ができるよう支援している。	色々な料理を楽しんでもらおうと、栄養士の助言で、栄養バランスにも配慮してメニューを作成している。外食支援に力をいれていて、利用者の楽しみになっている。食べやすいように皿を変えるなど工夫をしながら、利用者が自分の力で食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えて献立を作り、食事を提供している。食事摂取量や水分量もチェックし、体重の減少や脱水に注意している。ご本人の食べやすいように食事形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行い、利用者の状態に合わせ、声かけ、見守り、介助のもとで口腔ケアを支援している。義歯や歯ブラシ・コップは消毒し衛生管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをして、一人ひとりのパターンをつかむようにしている。できる限りトイレでの排泄を促し、自立にむけた支援を行っている。	本人の生活リズムに沿って、適切な個別誘導を行い、トイレで排泄できるようにしている。トイレでの排泄を大切にしながら、リハビリパンツ、パット類も本人に合わせて検討している。夜間、睡眠の妨げにならないようパットの容量を変えたりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをして、一人ひとりの状態を把握するよう努めている。食事は乳製品や野菜を取り入れる工夫を行い予防に努めている。必要があれば、かかりつけ医や訪問看護師に相談し指導して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者に合わせた入浴支援に努めている。拒否等に対しては言葉かけの工夫や時間など幅を持たせて対応している。利用者によっては同性介助を心がけている。	一人ひとりの検温結果や身体状況に合わせて、入浴ができるようにしている。利用者が安心・安全に入浴できるよう、職員は二人介助で対応している。寒い時期は、脱衣所を暖め、身体に負担がかからないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の散歩やラジオ体操やレクリエーション等に参加することで、日中を活動的に過ごし夜間はぐっすり眠れるよう努めている。体力が落ちている利用者等には、声かけし休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの最新の処方箋をファイリングし、全職員が目的・用法・用量・副作用について理解できるように努めている。誤薬を防止する為、薬の準備には細心の注意を払い、服薬の際は本人の目の前で名前・日付を確認してから服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や力に合った家事仕事を手伝っていただいたり、日々の生活の観察や本人・家族から聞いた生活歴から、楽しみごと・気分転換できるものを用意し、日々喜びを持って生活できるよう支援している。また、誕生日会やドライブ、外食、レクリエーション等のイベントを企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や七夕等、年間行事として毎月外出できるようになっている。また、散歩や買い物など、戸外へいつでも行けるように努めており、急な外出にも柔軟に対応している。家族とも自由に出かけられるように努めている。	事業所周辺を日常的に散歩し、季節の花を見に行くときはいつもより歩く時間を長くし、利用者の歩行状態を知り、ケアにつなげている。担当職員が外出計画を立て、利用者が楽しいと感じてもらえるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては居室にて金銭を所持している。希望に応じて外食や嗜好品等の買い物を自分の財布から支払っている。支払いが困難な方は、職員が手伝っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から、ご家族様や友人に電話を掛けたり、手紙を書いたり、希望に応じた支援をしている。携帯電話の所持も希望に合わせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある設えを心掛けている。共有空間の壁面には年中行事に沿った作品や写真等を飾り季節感を感じていただいている。また、照明や室温調節等にも安心して暮らせるように配慮している。	利用者が持っている力を活かせるよう、歩行できる動線を考え、テーブル・テレビ・ソファの配置を変えたり席替えをする等し、その人らしく過ごせるようにしている。感染症予防として、換気・室温・加湿を調整したり、玄関には、消毒剤・マスクを備えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士や同じ目的を、思い思いに気軽に楽しんで過ごせるように、複数のテーブルを設けている。一人になりたい場合は、自室で過ごされたり、その都度、様子を見ながら工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	愛用していた家具や利用者が慣れ親しんだ物をご家族に持ってきていただいたり、本人の希望で壁に飾って欲しい物や置いて欲しい物を設置したり、本人らしく暮らせるよう環境作りに努めている。	居室がわかるよう、入り口に本人の氏名が書かれた作品が飾られている。担当職員がわかるように、居室に利用者と一緒に写した写真が飾られている。衣替えは家族の方が行い、整理整頓している。お掃除は、利用者と職員が行い、清潔にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が分かり易いように風呂場・トイレに表示を設置し、歩行経路に危険箇所がないか常に気を配り、安心・安全を確保できるよう配慮している。		